

●海軍禮砲令

大正三年一月三十一日
勅令第十二號

改正 大正四年第一九〇號、九年第一七七號、昭和三年第二四四號、九年第三九五號、

一六年第九七三號、一七年第六二八號

朕海軍禮砲令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍）
海軍禮砲令

第一章 總則

第一條 本令ハ軍艦旗ヲ掲揚スル軍艦竝ニ特ニ規定アル軍艦以外ノ艦船及陸上部隊ニ之ヲ適用ス

第二條 軍艦ハ禮砲ヲ行フ但シ砲裝其ノ他ノ事情ニ依リ之ヲ行ハサルモノハ海軍大臣之ヲ指定ス

第三條 削除

第四條 禮砲ハ之ヲ行フヘキ時機ニ遭遇シタル後成ルヘク速ニ之ヲ行ヒ答砲ハ禮砲アリタル後直ニ之ヲ行フヲ例トス若二十
四時間内ニ行フコト能ハサルトキハ對方ニ其ノ理由ヲ説明ス
ヘシ

第五條 禮砲ハ祝日ノ場合ニ行フモノヲ除クノ外之ヲ受クヘキ主體ヲ確認シタル後、答砲ハ制規ノ方法ニ依リ規定ノ禮砲アリタルコトヲ確メタル後之ヲ行フヘシ

第六條 禮砲每發ノ間隔ハ五秒時ヲ以テ標準トス

第七條 二隻以上ノ軍艦同時ニ皇禮砲又ハ外國ノ祝日等ニ對スル禮砲ヲ行フトキハ一齊ニ之ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ各艦ハ首席指揮官ノ乘艦又ハ特ニ定メタル標準艦ノ第二發目ト同時ニ發砲ヲ始ムヘシ

第八條 禮砲ハ日出前及日沒後ニ於テハ之ヲ行ハサルヲ例トス碇泊中ノ軍艦其ノ軍艦旗掲揚前ニ於テ亦同シ

禮砲ヲ行フヘキ時機日出前又ハ日沒後ニ生シタルトキハ日出後又ハ次日之ヲ行フヘシ但シ旗章ニ對スル禮砲ハ特別ノ場合ニ於テ其ノ旗章ヲ識別シ得ル限り日出前日沒後ト雖之ヲ行フコトヲ得

第九條 來艦者又ハ退艦者ニ對スル禮砲ハ來艦者ニ付テハ其ノ乘艦後、退艦者ニ付テハ短艇本艦ヲ離レ適宜ノ距離ニ在ル時之ヲ行フ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
同日ニ所屬ヲ同ウスル二隻以上ノ軍艦ヲ訪問スル來艦者ニ對

シテハ最初訪問ヲ受ケタル軍艦ニ於テノミ禮砲ヲ行フヘシ

第十條 禮砲ヲ受クヘキニ以上ノ旗章現在スル間ハ下位又ハ後任者ノ旗章ニ對シテハ禮砲ヲ行フコトナシ但シ國ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 數箇ノ官職ヲ帶フル文武官ニ對スル禮砲ハ最多數ノ禮砲ヲ受クヘキ一官職ノミニ對シ之ヲ行フ

禮砲ヲ受クヘキ文武官二人以上同時ニ來艦又ハ退艦ノトキ行フ禮砲ハ其ノ主タル者、主タル者ナキトキハ最多數ノ禮砲ヲ受クヘキ者、最多數ノ禮砲ヲ受クヘキ者二人以上アルトキハ首席者ノミニ對シ之ヲ行フ但シ國ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラス

代理官ニ對シテハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ本官ニ對スル禮砲ノミヲ行フ

第十二條 禮砲施行中上甲板ニ在ル者ハ姿勢ヲ正スヘシ

第十三條 旗章掲揚ノ資格ヲ有スル文武官其ノ旗章ヲ掲ケサルトキハ之ニ對スル禮砲ヲ行ハス

第十四條 禮砲ヲ受クヘキ資格ヲ有スル文武官ハ禮砲ヲ辭スルコトヲ得

第十五條 軍艦禮砲ヲ行フヘキ場合ニ於テ其ノ艦第二條但書ノ規定ニ該當スルモノナルトキ又ハ禮砲ヲ行フコト能ハサルトキハ首席指揮官ハ他ノ軍艦ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

鎮守府司令長官警備府司令長官又ハ防備隊司令官ハ第二條ノ規定ニ依リ禮砲ヲ行フヘキ麾下軍艦在泊セサルトキ若ハ禮砲ヲ行フ能ハサルトキ又ハ麾下ニ第二條ノ規定ニ依リ禮砲ヲ行フヘキ軍艦ヲ有セサルトキハ相當ノ備砲ヲ有スル麾下ノ陸上部隊ヲシテ禮砲又ハ答砲ヲ行ハシムルコトヲ得

第十六條 外國ノ國旗、外國ノ元首皇族若ハ其ノ旗章、外國ノ祝日又ハ外國ノ文武官ニ對シテ禮砲又ハ答砲ヲ行フハ帝國ニ於テ其ノ政府ヲ公然承認シタルモノニ限ル

第十七條 軍艦外國ノ國旗、外國ノ元首皇族若ハ其ノ旗章、外國ノ祝日又ハ外國ノ文武官ニ對シテ禮砲又ハ答砲ヲ行フヘキ場合ニ於テ第二條但書ノ規定ニ該當スルモノナルニ依リ又ハ特別ノ事由ニ依リ之ヲ行フコト能ハサルトキハ首席指揮官ハ對方ニ其ノ理由ヲ説明スヘシ

第十七條ノ二 前條ノ禮砲又ハ答砲ヲ行フベキ場合ニ於テ特ニ必要アルトキハ第二條但書ノ規定ニ依リ海軍大臣ノ指定スル

軍艦又ハ軍艦以外ノ艦船ニ在リテモ禮砲ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ軍艦以外ノ艦船禮砲ヲ行フ場合ニ於テハ本令中軍艦ニ關スル規定ヲ準用ス

第十八條 軍艦外國ノ元首皇族若ハ其ノ旗章ニ對シ又ハ外國ノ祝日等ニ際シ禮砲ヲ行フニ當リ彼ヨリ自國規定ノ禮砲數ニ依ル禮砲施行ノ請求アリタル場合ニ於テ事情之ニ應スルヲ穩當ト認ムルトキハ首席指揮官ハ帝國ノ威嚴ヲ損セサル限り臨機ノ處置ヲ爲スコトヲ得但シ例規ノ祝日等ニ際シ行フ禮砲ハ特ニ命令アル場合ヲ除クノ外二十一發ヲ超ユルトキハ二十一發トス

第十八條ノ二 前二條ノ處置ヲ爲シタルトキハ當該指揮官ハ速ニ其ノ情況ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第十九條 禮砲ハ發砲禁止ノ場所ニ於テハ之ヲ行ハス

第二十條 禮砲ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外海軍大臣便宜處理スルコトヲ得

第二章 皇禮砲

第二十一條 天皇皇后太皇太后皇太后ニ對シテハ皇禮砲ヲ行フ
皇太后皇太后皇太后以外ノ皇族ニ對シテハ公式ノ場合ニ限り

第二十四類 海軍禮砲

皇禮砲ヲ行フ

天皇皇后旗皇太子旗皇族旗ニ對シテハ皇禮砲ヲ行フ

第二十二條 皇禮砲ノ數ハ二十一發トス

第二十三條 天皇軍艦ノ碇泊スル港灣ニ著御發御ノトキ又ハ其ノ近傍通御ノトキハ所在各軍艦ヨリ皇禮砲ヲ行フヘシ

第二十四條 天皇軍艦ニ臨御ノトキハ乘御ノ短艇其ノ艦ニ近接セサル前ニ於テ、還御ノトキハ乘御ノ短艇適宜其ノ艦ヲ離レタルトキ該艦ヨリ皇禮砲ヲ行フ所在各軍艦亦該艦ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フヘシ

同日ニ數隻ノ軍艦ニ臨御ノトキハ首席指揮官ハ適宜前項ノ皇禮砲ヲ行フヘキ軍艦及場合ヲ定ムルコトヲ得

第二十五條 天皇一境域内ニ滯御ノトキハ皇禮砲ハ最初著御ノトキ及最後發御ノトキノミ之ヲ行フ但シ前條ノ皇禮砲ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 軍艦乘御ノ艦船ニ遇フトキ又ハ臨御ノ港灣ニ來著シ若ハ其ノ近傍ヲ航行スルトキハ皇禮砲ヲ行フヘシ

第二十七條 皇族ニ對スル皇禮砲ハ前四條ノ例ニ依リ之ヲ行フ但シ皇后太皇太后皇太后皇太子皇太子妃以外ノ皇族ニ付テハ

第二十四條ノ皇禮砲ハ其ノ來乘ノ軍艦ノミ之ヲ行フヘシ

第二十七條ノ二 皇后、太皇太后、皇太后以外ノ皇族乘艦中非公式ヨリ公式ニ又ハ公式ヨリ非公式ニ變ズルトキハ其ノ乘艦航行中ナルトキハ該艦ノミ皇禮砲ヲ行ヒ其ノ乘艦碇泊中ナルトキハ所在各艦亦該艦ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フヘシ

第二十八條 天皇臨御若ハ皇族來臨ノ場所又ハ天皇旗皇后旗皇太子旗若ハ皇族旗ノ現在スル場合ニ於テハ皇禮砲以外ノ禮砲ヲ行ハス但シ軍艦外國港灣ニ至リタルトキ其ノ國ノ國旗ニ對スル禮砲ハ皇族旗ノ現在スルトキト雖之ヲ行フ

外國軍艦別ニ我國旗ニ對スル禮砲ヲ行ヒタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ニ對シ答砲ヲ行フコトヲ得

第二十八條ノ二 皇后太皇太后皇太后及皇后旗皇太子旗皇族旗ニ對スル皇禮砲ハ天皇臨御若ハ滯御ノ場所又ハ天皇旗現在スル場合ニ於テハ之ヲ行ハス

皇族軍艦ニ來乘ノ場合ニ於テハ該艦ノミ前項ノ規定ニ拘ラス皇禮砲ヲ行フ但シ該艦ニ臨御ノトキ又ハ該艦ヨリ還御ノトキト同時ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 外國ノ元首若ハ皇族又ハ其ノ旗章ニ對シテハ天皇皇族又ハ天皇旗皇后旗皇太子旗若ハ皇族旗ニ對スル例ニ依リ

皇禮砲ヲ行フヘシ但シ第二十八條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用セス
第三十條 紀元節、天長節、明治節其ノ他特ニ命令アル祝日等ニハ正午ニ皇禮砲ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テ外國軍艦帝國軍艦ト同所ニ在泊スルトキハ首席指揮官ハ其ノ前日ニ將校ヲ各外國海軍首席指揮官ニ遣シ皇禮砲ヲ行フ旨ヲ公式ニ告知シ尙外國港灣ニ於テハ相當ノ手續ヲ經テ所在砲臺ニモ之ヲ告知スルコトヲ要ス軍港要港以外ノ港灣ニ於テ外國軍艦ノミ在泊スルトキハ當該地方長官又ハ之ニ準スヘキ者ハ部下ノ官吏ヲ遣シ我ニ於テ皇禮砲ヲ行フヘキ祝日ナル旨ヲ公式ニ告知スヘシ

外國軍艦又ハ砲臺前項ノ告知ヲ受ケ敬意ヲ表シタルトキハ其ノ海軍首席指揮官又ハ砲臺ノ指揮官ニ對シ翌日將校又ハ官吏ヲ遣シテ謝意ヲ通スヘシ

第三十條ノ二 戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ際シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ本章ノ禮砲ノ全部又ハ一部ヲ行ハザルコトヲ得

第三章 帝國文武官ニ對スル禮砲

第三十一條 帝國文武官ニ對スル禮砲ハ左表ニ依ル

官職名	禮砲數	禮砲ヲ行フ區域	禮砲ヲ行フ場合及時機	禮砲ヲ行フ軍艦及回數
海軍大臣	十七		(一) 公式ニ軍艦ニ至リ退艦ノトキ (二) 公式ニ軍艦ニ來乘シ最後退艦ノトキ 檢閲ヲ終リ艦隊又ハ軍港等ヲ退去スルトキ	其ノ至リ又ハ來乘シタル軍艦
軍令部總長				
特命檢閱使	十七		檢閲ヲ受ケタル首席指揮官ノ乘艦又ハ其ノ麾下ノ一艦	
海軍大將	十七			
海軍中將	十五		(一) 場合ニ於テハ其ノ至リ又ハ來乘シタル軍艦	
海軍少將	十三		(二) 場合ニ於テハ其ノ麾下ノ一艦	
司令官タル海軍大佐	十一		(一) 元帥公式ニ軍艦ニ至リ又ハ來乘シ退艦又ハ最後退艦ノトキ (二) 司令長官又ハ司令官著任ノトキ及解職ニ依リ退艦退廳ノトキ	
特命全權大使	十九			
特命全權公使	十五	駐劄國內ニ限ル	(一) 軍艦ニテ赴任スル場合ニ於テハ駐劄國ニ上陸ノ爲退艦ノトキ、軍艦ニテ歸朝スル場合ニ於テハ駐劄國ヲ去ル爲乘艦ノトキ	(一) 場合ニ於テハ其ノ乘艦 (二) 場合ニ於テハ訪問ヲ受ケタル軍艦
代理公使	十三		(二) 公式ニ軍艦ヲ訪問シ退艦ノトキ	(一) 場合ヲ除クノ外同一地ニ於テ同一艦ヨリ同一人ニ對シ行フ禮砲ハ十二月ヲ經ルニ非サレハ更ニ之ヲ行ハス
總領事	九		(三) 公式ニ軍艦ニ來乘シ最後退艦ノトキ	
總領事代理又ハ領事代理	五	管轄區域内ニ限ル		
朝鮮總督				
臺灣總督	十七	管轄地内ニ限ル	公式ニ軍艦ヲ訪問シ退艦ノトキ	訪問ヲ受ケタル軍艦 同一地ニ於テ同一艦ヨリ同一人ニ對シ行フ禮砲ハ十二月ヲ經ルニ非サレハ更ニ之ヲ行ハス
滿洲國駐劄特命全權大使				

考	備
	一 退艦ノトキ行フ禮砲ハ時宜ニ依リ來艦ノトキ之ヲ行フコトヲ得
	二 特派大使ニ對シテハ特ニ命令アル場合ヲ除クノ外特命全權大使ノ例ニ依リ禮砲ヲ行フ
	三 名譽總領事又ハ名譽領事ニ對シテハ總領事又ハ領事ニ對スル例ニ依リ禮砲ヲ行フ
	四 陸軍將官ニ對シテハ特ニ命令アル場合ニ限リ禮砲ヲ行ヒ其ノ禮砲數ハ同官等ノ海軍將官ニ對スルモノニ同シ

第三十二條 削除

第三十三條 削除

第三十四條 戰時又ハ演習ノ際（演習部隊ヲ編制シタル時ヨリ之ヲ解クニ至ル迄ノ間）ハ特ニ命令アル場合ヲ除クノ外本章ノ禮砲ヲ行ハス

第四章 外國ノ國旗、外國ノ祝日及外國ノ文武官

ニ對スル禮砲

第三十五條 軍艦外國港灣ニ入りタルトキ其ノ地ノ禮砲ヲ行フヘキ砲臺又ハ其ノ國ノ軍艦ヨリ答砲アルヘキコトヲ確知シタルトキハ首席指揮官ハ毎回其ノ國旗ニ對スル禮砲ヲ行フヘシ但シ其ノ首席指揮官同所ニ在泊スル帝國軍艦ノ先著指揮官ヨリ後任ナルトキハ之ヲ行ハス

軍艦外國港灣ヲ出港シ僅少ノ時日内ニ再ヒ入港スル場合ニ於テハ其ノ地ノ當該官憲ト協定ノ上前項ノ禮砲ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ其ノ地ニ當該國ノ元首又ハ皇族ノ旗章現在スルトキハ國旗ニ對スル禮砲ハ之ヲ省略シ單ニ皇禮砲ノミヲ行フ但シ國旗ニ對スル禮砲ヲ省略スルハ機宜ニ適セスト認ムルトキハ首席指揮官ハ臨機之ヲ行フコトヲ得

第三十六條 前條ノ國旗ニ對スル禮砲ノ數ハ二十一發トス

第三十七條 帝國軍艦同所ニ在泊スル外國軍艦ノ本國ノ祝日等ニ會シ又ハ外國港灣ニ在リテ其ノ國ノ祝日等ニ會シ當該國海軍首席指揮官又ハ砲臺等ヨリ我首席指揮官ニ其ノ旨公式ニ告知アリタルトキハ禮砲ヲ行フヘシ

前項ノ禮砲ハ一事項ニ付一回限リトシ其ノ禮砲數及施行ノ時機ハ禮砲ヲ受クル國ノ例ニ依ル

内外國又ハ二以上ノ外國ノ祝日等相合シタル場合ニ於ケル禮砲施行ノ順序ハ内外國ノ間ニ在リテハ我國ノ爲ニスルモノヲ先ニシニ以上ノ外國ノ間ニ在リテハ外國港灣ニ於テ當該國ノ爲ニスル禮砲ヲ先ニスル外其ノ國名ノ英母字順ニ依ル

第三十八條

帝國軍艦外國ノ司令長官又ハ司令官ノ旗章ト出會シタル場合ニ於テ我首席指揮官彼ヨリ後任ナルトキハ我相當官ニ對スルト同數ノ禮砲ヲ行フヘシ但シ彼我同官等ナル場合

ニ於テ外國軍艦ノ碇泊スル港灣又ハ禮砲ヲ行フベキ砲臺アル港灣ニ入港スルトキハ我ヨリ禮砲ヲ行ヒ帝國軍艦ノ碇泊スル港灣ニ外國軍艦入港スルトキハ彼ヨリ禮砲ヲ受クヘシ

第三十五條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條

帝國軍艦同時ニ二以上ノ外國ノ司令長官又ハ司令官ノ旗章ニ出會シタルトキハ前條ノ禮砲ハ先任者ニ對スルモノヨリ逐次ニ之ヲ行フヘシ但シ禮砲ヲ受クヘキ者官等同シキトキハ外國港灣ニ在リテハ當該國司令長官又ハ司令官ノ旗章ニ對スル禮砲ヲ先ニスヘシ

第四十條

外國ノ文武官公式ニ帝國軍艦ヲ訪問スルトキハ之ニ相當スル我文武官ニ對スルト同數ノ禮砲ヲ行フヘシ但シ該官カ其ノ本國軍艦ヨリ受クヘキ禮砲數我國ノ制規ヨリ多キトキハ之ト同數ノ禮砲ヲ行フヘシ

第四十一條

帝國文武官ニ對シ外國軍艦第三十一條ノ禮砲數ト異ナル禮砲ヲ行フトキハ之ニ相當スル其ノ國ノ文武官ニ對シ帝國軍艦亦同數ノ禮砲ヲ行フヘシ

第四十二條

前二條ノ禮砲數十九發ヲ超ユル場合ニ於テハ十九發トス

第五章 答 砲

第四十三條

左ノ禮砲ニ對シテハ答砲ヲ行フヘシ

一 外國軍艦ノ我國旗ニ對シ行フ禮砲

二 外國軍艦ヨリ我司令長官又ハ司令官ノ旗章ニ對シ行フ禮砲

答砲ノ數ハ禮砲ノ數ニ同シ

答砲ハ首席指揮官ノ乘艦又ハ其ノ指定スル一艦ヨリ之ヲ行フ

第四十四條

左ノ禮砲ニ對シテハ答砲ヲ行ハス

一 天皇皇族又ハ其ノ旗章ニ對シ行フ皇禮砲

二 祝日ニ際シ行フ禮砲

三 帝國ノ文武官ニ對シ行フ禮砲

第四十五條 左ノ禮砲ニ付テハ答砲ヲ受クヘシ

一 軍艦外國ノ港灣ニ入りタルトキ其ノ國旗ニ對シ行フ禮砲

二 軍艦外國ノ司令長官又ハ司令官ノ旗章ト出會シタルトキ之ニ對シ行フ禮砲

第四十六條 左ノ禮砲ニ付テハ答砲ヲ受ケス

一 外國ノ元首皇族又ハ其ノ旗章ニ對シ行フ禮砲

二 外國ノ文武官來艦ノトキ行フ禮砲

三 外國ノ祝日等ニ際シ行フ禮砲

第六章 旗章ノ掲揚法

第四十七條 軍艦禮砲又ハ答砲ヲ行フ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ旗章ヲ掲揚スヘシ

依リ旗章ヲ掲揚スヘシ

一 外國ノ元首皇族又ハ其ノ旗章ニ對スル禮砲ヲ行フトキハ

之カ爲滿艦飾又ハ艦飾ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外其ノ間

當該國ノ軍艦旗ヲ大櫓頂ニ掲揚ス

二 外國ノ港灣ニ入り其ノ國旗ニ對スル禮砲ヲ行フトキハ其

ノ間當該國ノ軍艦旗ヲ大櫓頂ニ掲揚ス帝國國旗ニ對スル

外國軍艦ノ禮砲ニ對シ答砲ヲ行フトキ亦同シ

三 外國ノ祝日等ニ當リ禮砲ヲ行フトキハ之カ爲滿艦飾又ハ

艦飾ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外其ノ間當該國ノ軍艦旗ヲ

大櫓頂ニ掲揚ス

內外國又ハ二以上ノ外國ノ祝日等相合シ滿艦飾又ハ艦飾ヲ爲シタルトキハ我國ノ爲禮砲ヲ行フ間ハ外國ノ旗章ヲ

降下シ一外國ノ爲禮砲ヲ行フ間ハ我軍艦旗及當該國ノ軍

艦旗ヲ除クノ外外國ノ旗章ヲ降下ス

四 外國海軍將校ノ旗章ニ對シ禮砲又ハ答砲ヲ行フトキハ其

ノ間當該國ノ軍艦旗ヲ前櫓頂ニ掲揚ス

五 外國ノ文武官來艦ノ際禮砲ヲ行フトキハ其ノ間當該國ノ

軍艦旗ヲ前櫓頂ニ掲揚ス

六 旗章半揚中禮砲ヲ行フトキハ其ノ間旗章ヲ全揚ス

七 海軍大臣及海軍將校以外ノ帝國文武官ニ對シ禮砲ヲ行フ

トキハ其ノ間我國旗ヲ前櫓頂ニ掲揚ス

軍艦旗ノ制ナキ國ニ付テハ其ノ國旗ヲ以テ軍艦旗ニ代フ

第四十八條 陸上部隊ニ於テハ外國ノ爲禮砲又ハ答砲ヲ行フト

キト雖之カ爲其ノ國ノ旗章ヲ掲揚スルコトナシ

第四十九條 禮砲又ハ答砲施行中掲揚スヘキ旗章ハ禮砲又ハ答

砲ノ開始ト同時ニ檣頂ニ於テ之ヲ開キ其ノ終止ト同時ニ之ヲ

降下スヘシ

附則

本令ハ大正三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍禮砲條例ハ之ヲ廢止ス